

■ 安全強化策

当社は、従来から取引の安全性強化への対策を進めてまいりましたが、2005年7月にスパイウェアを利用した不正振込事件が発生したことを踏まえ、セキュリティ強化への取組みを加速させました。振込・送金金額の即時引き下げ（ロック）機能の追加や預金口座不正使用保険の導入などの対策を進める一方、外部のネットセキュリティ専門家も参加する「プライバシー&セキュリティ委員会」を設置し、より安全性の高い対策について審議してまいりました。その結果、トークン形式のワンタイムパスワードの標準採用を決定いたしました。ワンタイムパスワードは、2006年5月より順次発送し、一部の休眠口座を除くすべてのお客さまに配布しています。

営業の成果

■ 預金

預金は、期中557億46百万円増加し、期末残高は2,629億1百万円となりました。このうち定期性預金は、84億71百万円増加し、期末残高は907億79百万円。

■ 貸出金

貸出金は、期中36億2百万円増加し、期末残高は210億32百万円となりました。これらはすべて個人向け貸出金であります。

■ 有価証券

有価証券は、期中596億54百万円減少し、期末残高は2,322億74百万円となりました。このうち国債は1,358億12百万円であります。

■ 総資産

総資産は、期中227億29百万円減少し、期末残高は3,258億11百万円となりました。

■ 内国為替取扱高

内国為替取扱高は、前年度比1兆8,381億61百万円増加し、4兆572億84百万円となりました。

■ 損益の状況

収益面では、ローン残高増加により貸出金利息が増加する一方、前年度好調だった市場運用は、市場環境の悪化により有価証券の評価損失が拡大したため国債等債券売却損を計上し、前年度比減益となりました。決済件数の増加や広告業務などの新たな収益施策への取組みにより、役務取引等収益は大幅に増加しました。費用面では、新サービス開始にともなうシステム投資やシステムの安定稼働のため営業経費が増加しました。これらにより、経常収益につきましては、前年度比55億76百万円増加し、163億21百万円となりました。一方、経常費用につきましては、前年度比73億77百万円増加し、169億68百万円となりました。その他、三井住友銀行へのネットバンキングプログラムの使用許諾に伴う受取対価6億38百万円を特別利益に計上いたしました。以上の結果、経常損失は6億46百万円、当期純損失は27百万円となりました。